



まちづくりや企業誘致の考えを語る古川雅典市長・多治見市役所

略歴 ふるかわ・まさのり 1952年6月26日、多治見市生まれ。多治見北高、芝浦工業大卒。多治見市職員を経て、市議を3期、県議を2期務めた。2007年の市長選で初当選し、連続4選。67歳。

古川雅典 多治見市長インタビュー 4期目の抱負

駅前再開発で元気に

多治見市の古川雅典市長が、4月の統一地方選の市長選で無投票連選を果たし、4期目をスタートさせた。大規模再開発が予定されているJR多治見駅南地区を中心としたネットワーク型コンパクトシティの構築、さらなる企業誘致、美濃焼産業の振興などに力を注ぐ方針だ。「市民、市職員とともに元氣な都市をつくっていく」と語る古川市長に市政運営の方針や課題に対する考えなどを聞いた。

（聞き手は野中佳二・岐阜新聞・岐阜放送報道局長）

4月の市長選では3回連続で無投票で4選を決めた。無投票連選に対する受けたらめと3期12年の自己評価は。

「無投票となったことに、一人の有権者として投票の選択がないことが問題だと感じている。候補者としては3回連続で選挙で評価を得られなかったことは残念であるが、望んで決まったことではな

商店街再生、郊外に拠点

市は商業棟の3階部分を使って文化や芸術に触れられるような場所を提供する。こうした再開発の流れに乗って行いたが、商店街の再生。市内には駅前商店街とながせ商店街の二つの商店街がある。市内でビジネスを展開したいの物件がなくて困っているのが現状。そこで東濃信用金庫の力を借りて、起業希望者と商店街の空き物件のマッチングに力をかけている。市のアイデアと民間の力を足して町が動く。3年後には町が変わる期待感がある」



JR多治見駅南地区の再開発事業の完成予想図

企業誘致さらに力 美濃焼振興へ支援

「企業誘致が順調に進んでいる。これまでの経験と今後の展望は、トヨタ自動車、豊田自動車、織機などのトヨタ関連企業、アマゾン、日本ガイシなど多くの大手企業に来てもらえた。企業誘致の目的は、税収増と雇用創出、経済波及効果に期待している。誘致の取りかきには市長のトップセールスだが、その後には職員がしっかりと働いてくれている。今後は高田テクノパークをJR東海が期間を区切ってリーナ中央新幹線の資材置き場に使おうとしている。他にも誘致できそうな場所はあるので、本社機能や研究機関の誘致も視野に動いている。伝統産業の陶磁器業界は原料の枯渇や事業承継などさまざまな課題がある。産業振興に向けた具体的な

方策は。「現状は高品質な物は作れるのにマーケティングがうまくいっていないように感じる。女性の参画と若者のアイデアが重要と考え、二つの立場の代表者にアマゾン担当者を引き合わせて、国内・世界市場はどんな製品を欲しているのかを伝えている。市に具体的などうしようか、声を届けよう。今年には第7次総合計画の後期計画を策定する時期。市役所本庁舎の建設候補地の選定にも道筋をつけなければいけない。」

「キーワードは、ともにつくる。市民と議会とともに計画の策定を進めていきたい。計画実現のための財源についてもしっかりと議論をしていく。本庁舎建設候補地は、現庁舎が建っている日ノ出町が、音羽町に建つ駅北庁舎の隣とつながる。二つの候補地について、いろいろな要素を勘案して点検化し、市民と議員に提案したい。1年以内にどちらにするのかを決めたい」

「2014年に『消費可能性都市』の二つに挙げられた。その後、脱却を果たしたが、依然として人口減少の課題に直面している。『第7次総合計画後期計画』は人口減少を前提として作り上げて実行する。消費可能性都市は前期計画期間中に返上した。今後はネットワーク型コンパクトシティを形成し、人口流出に歯止めをかける。加えて愛知県の子育世代に移住を呼び掛け、医療環境と教育環境の素晴らしさをアピールする。人口10万人規模の市で、4人の人間国宝と二つの国宝があるのは全国に誇れる魅力、文化や自然もアピールしたい。人口減少対策として、国や市町村が作った計画はあるが、国と市町村の計画の中間部分に当たる計画を、県に作ってもらいたいと思っている」

「観光分野における近隣自治体との連携についての考えは。『名古屋で東濃地域をPRするイベント』METS HIGASHI-MINOを開いたりしているが、これからは広域観光が重要だ。来年のNHK大河ドラマ『麒麟がくる』の放送が好材料になる。一つの市だけではなく、東濃歴史街道協議会でもまた、協議会が現在、地蔵堂や山城などの部会で分かれ、組織が細分化している。こうした分け方でも、組織が連携して取り組むべきだと考えている。2027年にリーナ中央新幹線が開業する。乗客が東濃の地に降りてもらうために行動していきたい」

「来年は市制80年の節目の年に当たる。記念事業などの予定は。『東京五輪・パラピック、国際陶磁器フェスティバル、ねりんピック』などの開催と重なり、良いタイミングだと感じる。五輪とかができ、虎渓公園から多治見駅北口の虎渓用水水場までリレーする計画だ。ねりんピックではパドルテニスを開催地に決まった。市制80年を記念して、4億3千万円をかけて改修した『感謝と挑戦のTYK体育館』で、大相撲多治見場所を地方巡業の中でできないか検討している。またバレーボールリーグの豊田合成にサブ体育館として使ってもらい、試合を開催したい。卓球のリーグの試みも探している。市民と一緒に楽しんでいる（笑い）」